



nepia

# 千のトイレプロジェクト

あなたの選ぶネピアが、子どもたちを守るトイレになる。



# トイレと水の問題で 失われてゆく命を守りたい。

世界では、毎年150万人を超える子どもたちが、汚れた水とトイレの不備からおなかをこわし、脱水症状などで命を落としているという事実があります。「やわらかハート」のスローガンのもとに、王子ネピアは王子製紙グループの一員として、国際衛生年にあたる今年、その活動を世界へ大きく広げます。ネピア商品の売上の一部で、ユニセフの活動をサポートし、アジアで一番若い国、東ティモールに1,000以上のトイレを建設。ネピア商品を選ばれた皆さまの願いとともに、東ティモールの子どもたちとその家族の命と健康を守っていきます。生まれたばかりのこの国に、千のトイレを、そして千の笑顔。nepia 千のトイレプロジェクトが、今、動き始めました。





王子ネピアは、昨年より、「うんち教室」として、うんちと健康に関する授業を、日本の首都圏の小学校にて展開してきました。うんちを通して、社会のために、世界のために、もっと何かできることがあるんじゃないか、その思いがひとつの形になったのが、nepia 千のトイレプロジェクトです。今年4月には、東ティモールを実際に訪れ、この国で生きる人々の夢や笑顔に触れ、思いをさらに強くしました。また、日本では当たり前に見えるトイレが、ここでは「手の届かないもの」になっている現実を知り、大切なものは、当たり前の中にあることを感じました。今後、もっともっと多くの東ティモールの人たちが衛生的な生活を送れるよう、皆さまのお力添えを頂きがんばっていきますので、よろしくお願いいたします。

王子ネピア株式会社  
nepia 千のトイレプロジェクトリーダー  
今 敏之

ユニセフは、子どもの命と健やかな成長のため、「水と衛生」事業に取り組んでいます。

下痢性疾患で失われる幼い命は毎日約4,100人、清潔で安全な水とトイレ、衛生習慣があれば守ることのできる命です。すべてを一度にかえることはできませんが、私たちにできることがあります。nepia 千のトイレプロジェクトを通じて、水と衛生の問題への関心が高まり、皆さまができることに取り組んでくださることを願っています。

財団法人日本ユニセフ協会  
個人・企業事業部  
浦上 綾子



ネピアはユニセフを支援します

# あなたの選ぶネピアが、 子どもたちを守る トイレになる。



## プロジェクトの概要

ネピア千のトイレプロジェクトは、ネピア商品の売上の一部で、ユニセフの東ティモールにおける「水と衛生に関する支援活動」をサポートします。お客さまのお買い上げ1パックごとにユニセフへの寄付を積み上げ、1,000の家庭のトイレの建設と、15の学校のトイレの建設または修復を実施。さらに衛生習慣の普及と定着のための活動を支援します。

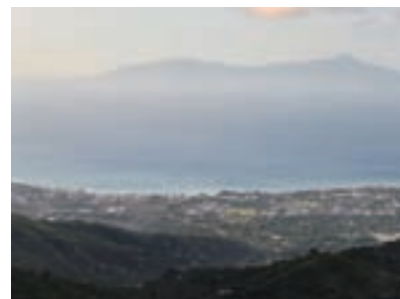


## 支援国・東ティモールについて



東ティモール民主共和国は、2002年5月に独立したアジアで一番若い国です。建国以来、国際社会の協力を得ながら国づくりが進められていますが、国民の10人に4人以上は、一日1~2米ドル以下の生活を強いられています。5歳未満児の死亡率は出生1,000人あたり130人に及び※、アジアの中で子どもの生存が厳しい国のひとつであり、汚れた水とトイレの不備から、5歳未満の子どもの5人に1人が下痢をわずらっています。特に農村部のトイレと水の環境改

善は緊急の課題であり、2006年のユニセフの調査では、農村部人口の77%がトイレを利用できない環境にあること、61%の学校がトイレと給水設備の改善を必要としていることが分かりました。



※ ユニセフ東ティモール事務所調べ

## プロジェクトの目標

今回のプロジェクトでは、東ティモールの三つの地域（エルメラ、リキサ、オエクシ）を対象に、トイレの建設・修復、衛生概念の啓発、衛生習慣の定着活動を通じて、子どもたちとその家族約13,000人が健康に暮らせる環境づくりを支援します。トイレの建設を含むプロジェクトの実施にあたっては、ユニセフやNGOの指導・協力のもと、住民が主体となって、建設作業や啓発活動が実施されます。

- **家庭用トイレ**：1,000の世帯に、家庭ごとの専用のトイレを設置します。

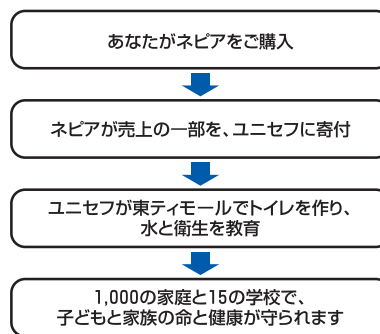
トイレの形状・システムは、農村部で住民が持続的に使用できるものになります。

- **学校用トイレ**：15の学校で、手洗い場のついた男女別のトイレの建設、または修復を行います。学校にトイレがあると、就学率が上がり、また中途退学率が下がることが明らかになっています。

トイレの設置は、衛生的な環境を保ち、個人のプライバシーを守るためにも、緊急を要する課題です。

## プロジェクトへの参加方法

2008年7月1日(火)～10月31日(金)のキャンペーン期間中、キャンペーンの対象となるネピア商品をお買い上げになるだけで、どなたでも、プロジェクトに参加できます。対象商品取扱店は、nepia 千のトイレプロジェクトウェブサイト (<http://1000toilets.com>) 内キャンペーン実施企業ページでご覧になれます。



また、郵便振替での募金でもこのキャンペーンに参加することができます。

郵便振替口座 00190-5-31000 口座名義 (財)日本ユニセフ協会

※通信欄に「ネピア」と必ず明記ください。

※窓口でのお振込の場合は、送金手数料が免除されます。

※郵便振替での募金の場合は、(財)日本ユニセフ協会より領収書が発行されます。

(財団法人日本ユニセフ協会への寄付金は、特定公益増進法人への寄付として税制上の優遇措置の対象となります。詳しくは、日本ユニセフ協会のホームページ <http://www.unicef.or.jp/> をご覧ください)



(写真上から) ユニセフの支援によって今までにつくられた家庭用トイレの一例。/学校用トイレの一例。/ユニセフの支援でできた水道で手を洗う少女。



ネピアはユニセフを支援します

## キャンペーン対象商品



※プロジェクトを広くお伝えするため、プロジェクトの告知をデザインした商品もご用意しています。



**東ティモールを訪れたプロジェクトチームが出会ったもの。  
それは、一刻も早く解決すべき、トイレと水の問題。  
そして、子どもたちの夢と笑顔でした。**

現地レポート：nepia 千のトイレプロジェクトリーダー 今 敏之

強い日差しに青々と茂る大木、美しい海。国内避難民キャンプや廃墟もまだ残るこの国で生きる、きらきらとした目のたくさんの子どもたち。今年4月21日から25日までの5日間、「nepia 千のトイレプロジェクト」の実施に先立って、私は、東ティモールへ視察に行きました。



## 5歳未満児の死亡率が 1,000人中130人に及ぶという厳しい現実。 下痢をわずらう子どもが、数多くいます。

向かった先は、プロジェクトでトイレ設置の対象となっているファヒティ村です。首都ディリから車で約1時間、山あいの凸凹道を抜けて村の小学校に到着すると、伝統衣装を身にまとった男の子は勇壮な舞いで、女の子は美しい舞いで出迎えてくれました。nepia 千のトイレプロジェクトへの村人たちの大きな期待

を感じ、胸が熱くなりました。歓迎ムードの中、挨拶に立った校長先生はこう訴えたのです。「この村ではきれいな水が手に入らず、衛生問題は深刻です。村全体が支援を求めています」。この言葉どおり、私は村の厳しい現状を目の当たりにしていきます。

校舎の脇に、個室の簡易水洗式トイレが三つありました。しかし配水管が壊れ

て使えず、誰も修理方法が分からないため放置されたままです。水で流せるトイレは村の53世帯の中でたったの1カ所。村長さんは、「水がないから生徒たちは手も洗えず、トイレも使えません。不衛生な環境が原因で、下痢やマラリアにかかる子どもがどんなに多いことか」と表情を曇らせました。東ティモール全体でも、給水・衛生設備が機能している学校はわずか39%しかありません。

## 6人の子どもたちが 全員マラリアに苦しみました。 きれいなトイレと水がないからです。

6人の子どもを育てるお母さんの話はショックでした。日々の生活に必要な水は、彼女が毎日1時間歩いてくみに行くと言います。それでも水が足りず、トイレに使う余裕はありません。近所の母親たちも同じ悩みを抱えています。



自宅の衛生事情の悪さを嘆く母親。隣にいる4歳の女の子も、以前マラリアをわずらった。

彼女にとって何よりもつらかったのは、子どもたちがみなマラリアで苦しんだことでした。「先週も14歳の娘がマラリアにかかりました。きれいなトイレと水があれば病気を防げるのに」と悲しそうな顔をしました。日本では当たり前に見えるトイレが、ここでは「手の届かないもの」になっている現実。衛生的な環境に必要なものは分かっているのに、自分たちの力だけではどうすることもできません。私が出会ったほとんどの子どもたちは下痢で寝込んだ経験がありました。トイレトペーパーを届ける企業として、衛生問題に取り組むべきと、強く感じたのです。

2006年、東ティモールでは大規模な暴動が発生し、電気や水道といったインフラ設備が大きな打撃を受けました。私はファヒティ村以外にもいくつかの小学校を訪問しましたが、中には暴動で貯水タンクが壊されたためトイレが使えなくなった学校もありました。



(写真上から) 国内避難民を収容するキャンプに住む子ども。／竹を半分に割っただけの、むき出しの配水管。／プロジェクトチームは東ティモールのさまざまな村で衛生の現状をヒアリング。



**ユニセフの支援によって、  
すでにトイレがつけられた学校や村には、  
人々の笑顔がありました。**

現在、ユニセフは、東ティモールの特に農村と学校における清潔で安全な水とトイレの確保のために、活動しています。私が訪れたディリ近郊の山間部にあるカメラ村では、ユニセフの「水と衛生に関する支援活動」が実施され、大きな変化が生まれており、プロジェクトの成果を予想することができました。村の69世帯すべてに、住民の主体的な活動によって、トイレが設置されました。また、山のわき水を貯水タンクに貯め、山の高低差を利用して、パイプで水を運ぶ水道

と蛇口がつけられ、家庭の近くで、きれいな水が使えるようになっていました。

高台にある小学校にも、男女別の個室のトイレがつけられました。便器の脇には用を足した後に流す水をためる水槽があり、水道の蛇口をひねれば新鮮な水がたまる仕組みです。建物の外側には手洗い用の蛇口が三つ取り付けられています。村長さんは「以前は、豚がいるような場所で用を足していたのです。水道とトイレが完備したおかげで衛生的な生活が送れるようになり、マラリアが減りました」と話してくれました。児童たちは、頻繁に手を洗う習慣が身



カメラ村の小学校に新設された水洗トイレは個室。衛生的なトイレに児童たちも完成を喜んだ。

についたようです。子どもも大人も口々に「きれいなトイレができてうれしい」と笑顔を見せてくれました。nepia 千のトイレプロジェクトによって、これから生まれるたくさんの笑顔を想像しました。



(写真左から)カメラ村の小学校。／プロジェクトチームのメンバーと東ティモールの子どもたち。／視察団の車は悪路を走り、時には川も越えた。

## トイレをつくるだけでなく、 衛生的な習慣を定着させることが とても大切。

今回の視察では、日本トイレ協会のご協力により、2カ所の小学校で「うんち教室」を開きました。子どもたちに衛生の大切さを楽しく学んでもらう教室です。初めはきょとんとしていた生徒たちも、おがくず粘土を使って「うんち鉛筆」をつくる頃には大はしゃぎ。授業の最後には、みんな「SINTINA! (東ティモールの現地の言葉テトゥン語でトイレのこと)」と笑顔で叫んでいました。衛生事情の改善にトイレの設置は必須ですが、加えて人々に衛生習慣が定着すれば、もっと病気は防げるはず。nepia 千のトイレプロジェクトがサポートするユニセフの「水と衛生に関する支援活動」では、トイレをつくるだけでなく、衛生習慣の定着も重要なプログラムのひとつになっていますが、啓発活動の大切さを改めて感じました。

滞在中に訪れた村や学校では、必ず大歓迎を受けました。特に子どもたちは、

初めは恥ずかしがっていても、打ち解けるととびきりの笑顔で私と接してくれました。その一方で、「水とトイレが不足している私たちの苦しい現状を、ぜひ日本の皆さんに知ってもらいたい」と訴える村長さんや先生方からは、必死な思いが伝わってきました。独立してわずか6年ほどの東ティモールでは、人々が国づくりに懸命に努力しています。この国を訪ねて肌で感じた、nepia 千のトイレプロジェクトへの大きな期待に応えるために、そして、この国で出会ったたくさんの笑顔を守るために、これから、このプロジェクトの意義と思いを一生懸命伝えていきたいと思います。最後に、ユニセフ東ティモール事務所・久木田純代表が語っていた言葉が心に残りました。

「独立したばかりのこの国は、今がいちばん大変で、今がいちばん大切なとき。今こそ、支援が求められているのです」。



(写真上から) ユニセフ東ティモール事務所の久木田純代表。／現地の小学校で開いた「うんち教室」の様子。／nepia 千のトイレプロジェクトリーダー・今敏之。

nepia 千のトイレプロジェクトに共感し、協力して下さる方々とともに、活動を広げていきます。

昨年から、首都圏の小学校で「うんち教室」を王子ネピアとともに実施してきた日本トイレ協会が、nepia 千のトイレプロジェクトもサポート。4月の東ティモール視察時には、現地の二つの小学校で「うんち教室」を実施しました。

また、視察には、写真家の小林紀晴氏も同行。2008年8月15日（金）から25日（月）までの11日間、東京・渋谷の東急文化村・Bunkamura Galleryにて小林紀晴氏による写真展を開催します。小林氏がファイナダーを通して写し出す、東ティモールの子どもたちや人々のさまざまな表情をご紹介します、プロジェクトへの理解へつなげます。

そして、締めくくりとして、プロジェクト実施後に慶應義塾大学の井上哲浩教授をコーディネーターとしてシンポジウムを開催する予定です。



うんちは世界共通。東ティモールでも、日本と変わらない、たくさんの子どもたちの笑顔に出会いました。国際衛生年の今年、千のトイレプロジェクトとともに、世界の衛生の問題を考えていきたいと思います。

#### 日本トイレ協会 加藤 篤

日本トイレ協会理事。途上国のトイレ調査のほか、野外フェスや博覧会、山岳地、観光地などにおける、トイレ計画づくりを担当。子どもたちにトイレやうんちの大切さを伝える活動を、日本そして海外でも展開している。



限られた時間のなかで、果たして自分に何が撮れるだろうかと、出発前に何度も考えました。そして、一つのことを、決めました。ほんの数人でもいいから子供たちの顔を、正面からしっかり撮りたいと。とにかく、まずは触れるほど近くで、見ることから始めるべきだと。同時に何かしらの関係を、彼らと少しでも築ければという思いがありました。また東ティモールに行って、成長した子供たちの姿を撮ってみたいと、いま思っています。

#### 写真家 小林 紀晴

1968年、長野県生まれ。アジアの旅先で出会った日本人の若者の姿を写真と文章で綴った「ASIAN JAPANESE」でデビュー。多くの若者の絶大な共感を呼ぶ。「DAYS ASIA」で1997年度日本写真協会新人賞受賞。日本で最も注目される写真家のひとりとして、次々と意欲的な創作に取り組んでいる。最新の写真集は、「はなはねに」。



地球は、一つのザ・グローブ。一つの命は、無限の価値。無数の笑顔へのプロジェクト、千のトイレ。皆様の願いを一緒に守り大切に考えたいと思います。

#### 慶應義塾大学 井上 哲浩教授

1987年関西学院大学卒業。1996年カリフォルニア大学ロサンゼルス校 Ph.D. (Marketing)。マーケティング・コミュニケーション戦略、ソサイアタル・マーケティングを研究。

## nepia 千のトイレプロジェクト へ、よくあるご質問

### Q なぜネピアがトイレをつくるの？

A 世界では毎年150万人を超える子どもたちが、汚れた水とトイレの不備からおなかをこわし、脱水症状などで命を落としているという事実があります。トイレトーパーを届ける企業として何ができるだろうと考え、ネピアは、nepia 千のトイレプロジェクトを立ち上げました。

### Q 支援国に東ティモールを選んだ理由は？

A ネピアは、国際衛生年にあたる今年、世界へ目を向け「水と衛生に関する問題」への取り組みを模索するなかで、東ティモールの現状を知りました。同じアジアの一員として、国づくりが進むこの重要な時期をサポートしたいという思いから、支援国に決定いたしました。

### Q 1,000個のトイレをつくったらプロジェクトは終わりなの？

A 東ティモールでは現在、農村部人口の77%がトイレを利用できない環境にあり、61%の学校がトイレと給水設備の改善を必要としています。2008年には1,000の家庭用トイレと15の学校のトイレと給水施設の建設または修復を目指しますが、東ティモールの衛生、ならびに健康状況の改善には、継続的な支援が必要です。2008年のキャンペーン終了後、ネピアは王子製紙グループの一員として、日本ユニセフ協会とともに、今後の支援を検討する予定です。

### Q 売上が増えると、寄付も増えるのですか？

A はい。nepia 千のトイレプロジェクトは、キャンペーン期間中の商品のお買い上げ数量に伴って寄付の総額が増える仕組みをとっています。寄付金額が目標を超えた場合には、超えた金額も含めて、ユニセフの東ティモールにおける「水と衛生に関する支援活動」に活用されます。

### Q ユニセフはどんな組織？

A ユニセフ（国際連合児童基金）は、2008年6月現在で、156の国と地域で子どもたちの健やかな成長を守るために活動している国連機関です。

### Q ユニセフを支援するのはなぜ？

A 途上国におけるトイレと水の問題改善には、衛生習慣の普及と定着のための活動と、継続的に使用できる設備が必要とされます。ユニセフは、水と衛生の分野で40年以上の活動実績があり、東ティモールでは、2000年以降、水と衛生分野への支援活動を実施しています。ネピアは、途上国におけるユニセフの活動の実績と経験をふまえ、支援を申し出ました。

### Q プロジェクトの進捗状況は、いつ、どんな形で発表されるの？

A プロジェクトの進捗状況は、ウェブサイト（<http://1000toilets.com>）で発表していく予定です。

やわらか♡ハート  
nepia  
王子製紙グループ

 王子ネピア株式会社  
〒104-8319 東京都中央区銀座 5-12-8

nepia 千のトイレプロジェクトについて、くわしくは →  
<http://1000toilets.com>

